

散文詩の巨人 粕谷栄市

2024年 9月28日(土) ~ 12月24日(火)

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
- 入館料 一般200円 小中高50円
- 休館日 月曜日、祝日の翌日、第4金曜日 臨時休館 10月24日(木)
- 交通 JR宇都宮線古河駅徒歩15分 東武日光線新古河駅徒歩25分
東北道 久喜IC 40分 館林IC 30分
圏央道 五霞IC 25分 境古河IC 30分

古河文学館

〒306-0033 茨城県古河市中央町三丁目10番21号 TEL 0280-21-1129 FAX 0280-21-1135
URL <https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/6-1/754.html>



こいっしょに... ◇古河歴史博物館「没後380年記念 土井利勝」 ◇三和資料館「宮本理三郎・中人・尚子木影展」
◇篆刻美術館・古河街角美術館「書家 桑原翠邦と篆刻家 高石峯」

散文詩の巨人

粕谷栄市



粕谷栄市氏(1934~)

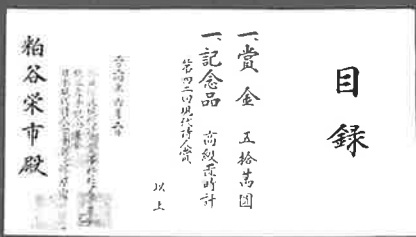
処女詩集『世界の構造』で高見順賞を受賞して以来、一貫して散文形式の詩を書き続けてきた粕谷栄市氏。

幽明の境を自在に往き来する、あるいは、一見、現実にはあり得ない反世界を描いたような粕谷氏の作品について、かつて谷川俊太郎氏は「粕谷さんは生を詩に翻訳する」と評しました。

幻想的でありながら強烈に現実性を感じさせる、しかも本から飛び出し、言葉の壁となって読む者を圧倒するような迫力をもつ粕谷氏の作品は常に高い評価を受けてきました。

これまで刊行した8冊の詩集のうち実に6冊が文学賞の対象となるなど、粕谷氏は現代詩壇を代表する詩人の一人といえますが、さらにまた、昨年10月には前作から10年ぶりとなる詩集『楽園』を刊行、第42回現代詩人賞を受賞しました。まさに「散文詩の巨人」というべき稀有な存在です。

本展では、古河生まれ古河育ち、そして現在も古河在住という生粋の古河人でもある粕谷栄市氏の詩業と作品の数々を紹介します。



第42回現代詩人賞の目録と詩集『楽園』

粕谷栄市氏 略年譜

- 昭和 9(1934)年 古河町一丁目(現古河市本町)に生まれる。
- 昭和16(1941)年 古河男子国民学校入学。
- 昭和21(1946)年 新制古河中学校入学。
- 昭和25(1950)年 古河第一高等学校商業科入学。従兄の粒来哲蔵の影響を受け、詩作を始める
- 昭和28(1953)年 高校卒業後、一年間の製茶業見習いをへて、早稲田大学第一商学部入学。在学中、早稲田詩人会に参加。
- 昭和32(1957)年 早稲田大学商学部卒業。家業に就きながらも詩作を続け、石原吉郎編集の詩誌『ロシナンテ』の同人となる。詩誌『現代詩』新人賞佳作。
- 昭和36(1961)年 詩誌『竜』同人となる。
- 昭和37(1962)年 詩誌『地球』同人となる。
- 昭和38(1963)年 詩誌『鬼』同人となる。
- 昭和46(1971)年 これまで創作してきた作品をまとめ、詩集『世界の構造』(詩学社)を出版。翌年、第2回高見順賞を受賞。
- 昭和48(1973)年 詩誌『歷程』の同人となる。
- 昭和49(1974)年 詩誌『詩学』の作品月評を担当。
- 昭和50(1975)年 NHK「関東ネットワーク下町風物詩」に出演。
- 昭和51(1976)年 現代詩文庫『粕谷栄市詩集』(思潮社)出版。
- 昭和52(1977)年 現代詩人会H氏賞選考委員をつとめる。
- 昭和54(1979)年 鮎川信夫とともに『石原吉郎全集』(全3巻・花神社)の編集を担当。
- 昭和60(1985)年 『現代詩手帖』の月評を担当。
- 平成元(1989)年 詩集『悪霊』(思潮社)を出版、第27回島崎藤村記念歷程賞を受賞。
- 平成 2(1990)年 この年以後、『歷程』の編集を担当。
- 平成 3(1991)年 5月から翌年4月まで、『現代詩手帖』新人作品選評を担当。
- 平成 4(1992)年 詩集『鏡と街』(思潮社)出版。
- 平成 7(1995)年 江代充、高貝弘也、法橋太郎と詩誌『幽明』を創刊する。
- 平成10(1998)年 『石垣りん詩集』(角川春樹事務所)の編集および解説を担当。D.W.Wrightの訳により作品「邂逅」が「CHANCE MEETING」として英訳される。現代詩人賞選考委員をつとめる。
- 平成11(1999)年 詩集『化体』(思潮社)を出版。翌年、第15回現代詩歌文学館賞を受賞。
- 平成12(2000)年 この年から平成16年まで、小池昌代、新井豊美、藤富保男、小長谷清実、小紋章子と『沓の会』詩画展を響画廊(銀座)で開催。
- 平成14(2002)年 『現代詩手帖』2月号から新連載で毎月作品発表。
- 平成15(2003)年 現代詩文庫『続 粕谷栄市詩集』を出版。『現代詩手帖アンソロジー1985-2003』に「猿を殺して生きる者への忠告」が収録される。
- 平成16(2004)年 詩集『轉落』(思潮社)『鄙唄』(書肆山田)を同時出版。歷程新鋭賞選考委員長をつとめる。
- 平成17(2005)年 『轉落』『鄙唄』の両詩集で第55回芸術選奨文部科学大臣賞(文学部門)を受賞。秋には茨城県特別功労賞を受賞。
- 平成18(2006)年 『歷程』70年記念号に作品「鹽の舟」「極楽寺町」、エッセー「転落志願」を発表。作品「夏と橋」が英訳され米『Sentence』誌の現代日本散文詩特集に収録される。
- 平成22(2010)年 詩集『遠い川』(思潮社)を出版。翌年、第6回三好達治賞を受賞。
- 平成25(2013)年 詩集『瑞兆』(思潮社)を出版。
- 平成28(2016)年 池井昌樹と詩誌『森羅』を創刊。
- 令和 3(2021)年 日本現代詩人会より先達詩人として顕彰される。
- 令和 6(2024)年 前年10月に出版した詩集『楽園』で第42回現代詩人賞を受賞。